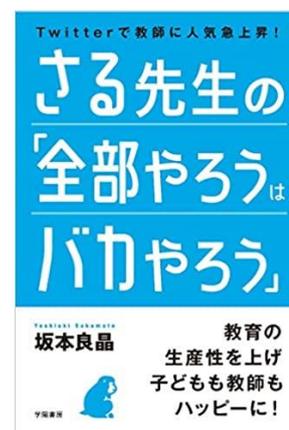


Share Happy シェアハピ°!

【アーリーショケナーへの道】

新年度が始まってから1か月が経過しました。昨年度より、本校では**通知表の総合所見が年度末の一回へと変更され**、大幅な働き方改革につながったように感じます。一方で、これに甘んじて全く書かずにいると（そんな方はいないかと思いますが…）、来年の2月あたりに「総合所見」「道徳所見」「総合的な学習の所見（中学年以上）」「外国語活動の所見（中学年のみ）」がドドンと一気に降り注いでいきます（中学年、結構しんどいです…）。

数年前まで、私自身も所見の時期が近づいてきたら一気に書き上げるというコスパの良くない仕事の仕方をしていました。当然その時期は、残業の時間も増えていました…。そんな働き方が変わるきっかけとなったのが、坂本良晶さんの**「さる先生の全部やろうはバカやろう」**という本です。坂本さんは、SNSを中心に教員の働き方についてたくさんの発信をしており、所見の書き方についても提案をしています。



この坂本さん、教員になる前はくら寿司の店長をしていたそうで、その時の働き方の1つを所見に応用したそうです。

寿司屋さんでは、お客さんがあまり来ない時間（アイドルタイム）になると、箸やおしぼりの補充など、ピークタイムに向けた仕込みを急いで行うのだそうです。つまり、「**鮮度は関係ないため、時間を問わずやっておける仕事**」をこのアイドルタイムにガンガン行うのです。一方で、寿司を握る、揚げ物を作るといった「**鮮度が命**」の仕事は前もってやっておくことができないため、オーダーされた瞬間にどンドンこなしていくのだそうです。まとめると…

- ☑ **乾きもの仕事**：時間を問わずやっておけるもの（教材研究、提案文書、指導案作成など）
- ☑ **生もの仕事**：鮮度が命でその場でやっつけるもの（生徒指導、ノート評価、テスト返却、丸つけなど）

では、「**所見を書く**」というのは、**どちらか。生もの仕事です**。来年の2月に「今日の体育で頑張っていた子のエピソード」を覚えていられるかと考えると、なかなか難しいですよ。もちろん、教務手帳等にメモをされている先生もいると思

いますが、私はパソコンのデスクトップに「所見」というエクセルデータを貼り付けておき、「その日頑張っていた子の様子」や「その日褒めた子のエピソード」を職員室に戻ってきたら、すぐに3分間打ち込むということを週2～3回行っていました。これを続けていると、来年の2月くらいにはすでに所見が完成している状態になれます。早めを書くことのメリットはたくさんありますが、最も大きいのは、**保護者の安心感や喜びにつながる**ことです。具体的なエピソードが書かれていた方が、読んだときに子供の成長を感じやすいですね！

▼後々書くと…

体育では、どの運動にも一生懸命取り組んでいました。また、困っている友達に多くのアドバイスをするなど、たくさんの関わりが見られました。

○その日のうちに書くと…

体育「鉄棒運動」では、手にマメができるほど後方支持回転の練習に励んでいました。また、自ら逆上がりができない友達の近くへと行き、「腰を上げるといいよ！」というアドバイスをしていました。自分だけでなく、友達のことにも考える優しい心が育っています。

といった感じでしょうか！私も息子の保育園の連絡帳を見るたびに、「嬉しいなあ。なんでだろう。」と思っていたのですが、ある時、「書かれていることがめっちゃめっちゃ具体的だからだ！具体的だと、成長が手にとるように分かる！だから、嬉しいんだ！」と気が付きました。

先ほど紹介した本の中では、早くから所見に取り掛かる人を「**アーリーショクナー**」と呼んでいます（なんかカッコいいですね！）。子供たちの頑張りを忘れてしまう前に、ぜひ所見データとして残しませんか？？

Share Happy シェアハピ°！

【クラスの自治力】

「このクラスは安定しているな」と感じる1つの条件として、「クラスの自治力が高い」ことが挙げられます。クラスの自治力とは、「自分たちのことを、自分たちで律することができる力」です。私もまだまだ勉強中ですが、今回は自治力を高めるために昨年度までクラスで意識していたことを4つご紹介します。学級経営に関わってくることで、これが正解！というわけではありません。1つの考え方として受け止めていただければと思います。

①トラブルを解決してあげない

集団生活をしていると、小さなものから大きなものまで多くのトラブルが起こります。もちろん、大きなトラブルについてはすぐに指導を行います。ほとんどのケースが些細なすれ違い、勘違いです。子供たちからの報告を受けた際に、「自分たちの力で解決してほしい」と思った事案については当事者を呼び、私の前で納得がいくまで話し合わせます。その際、私は全く口出ししません（話の内容は聞いています）。話し合いが終わると、私は必ず当事者たちに「何があったの？」という内容の確認をし、「解決で大丈夫？」という最終確認をします。全員から「はい。」という言葉が聞けたら、終了という流れです。私からの最後のお話もありません。これを繰り返していくと、「**小さなトラブルであれば、自分たちで解決できる力があるんだ**」「**大変なトラブルだと思ったけれど、ただの勘違いだった**」ということに気づき、結果的に自治力が高まります。

② 必要のない指示は出さない

とにかく、指示を減らすことがクラスの自治力を高める上で大切だと思っています。例えばテストの時間。

「では、テストをします。机をテスト隊形にしましょう。配られたら、名前を書きます。配られた人から、始めてください。終わった人から提出して、読書をしましょう。」

よくある指示です。始めはこの指示でも何ら問題はないと思いますが、いつまでも丁寧に指示を出し続けていると、「先生の指示がなければ動かない・動けない児童」がみるみる出来上がっていきます。なので…

「テストをします。（児童が気付いてテスト隊形にする）」

といった感じで、だんだんと必要最低限の指示しか出さないようにします。児童から質問が出た場合は、「いつもと同じです」と答え、児童に考えさせます。

③ 結果ではなく、動いた過程を褒める

自治力が高まってくると、指示がなくても自分たちの意思で行動することが増えてきます。その際、仮によい結果にならなかったとしても“自分たちの判断で動いた”ということに価値づけしています。**結果を褒めてしまうと、結果がどうなるのか怖くて自己判断ができない子に育ってしまうから**です。

④ 質問に答える時は、あえて抽象的に

1学期は、毎日質問の嵐です。答える際に私が意識していたのは、“**抽象的な解答をすること**”です。例えば、担任時代に「先生、今着替えていいですか?」「いつ着替えればいいですか?」という質問をたくさん受けました。「いいよ」「今はだめだよ」といったように、質問に対して一つ一つ答えていると、自分の頭を使う前に質問をする習慣が身についてしまいます。なので、私は「授業に影響が出ない時間なら着替えてOK」というあえて抽象的な受け答えをしていました。そのほかにも、「ここ、掃除しますか?」という質問には「掃除の目的は、汚れているところをきれいにする事だね。って考えると、どう?」と答えたり、「並んでいきますか?」という質問には、「そもそも、どうして廊下に並んで移動するのかな?その目的が分かれば、どっちがいいのか判断できるよね!」と答えたりしていました。**悩んだ時に答えを出すための基準を与えることで、次回からは自分たちの判断のもと行動できるようになっていきます。**

毎年子供たちには、学校生活を送っていて「どうすればいいか全くわからない」という問題には、そう出会わないということです。たとえ悩んだとしても、友達がいればほとんどの問題は解決できます。習慣化するまでは時間がかかりますが、

“子供たちが考える機会を教員が奪わないこと”
が、クラスの自治力を高めるための近道だと思っています。

ちなみに、5-1の中村先生のクラスにこんな掲示が貼ってありました。3年前、中村先生と学年を組んだ際に学年のテーマとしていた言葉です。考動クラスを作るためには、**「児童が考動せざるを得ない環境を教師が生み出す必要」**があります。上の4つはそのような考えから生まれた手立てです。何かの参考になれば幸いです。



Share Happy シェアハピ°!

【Canvaのお話】

前回に引き続き、Canvaのすごい機能についてご紹介します。今回ご紹介するのは、「AI自動画像作成機能」です。

使い方は簡単！

- ①欲しい画像のイメージを、入力する。
- ②画像に変換する。

以上です。これだけの手順で、欲しい画像をAIが自動で作ってくれます。

☆操作画面



例えば・・・



AIが画像を作成してくれる時代が来るなんて・・・！という感じです。

これを授業で生かすとなると、例えば俳句作りの授業で使いそうだなと思いました。これまでは短冊を配り、俳句を書き、色鉛筆で絵を描くといった学習でしたが、

- ①Canvaで考えた俳句を打ち込む。
- ②俳句のイメージを打ち込んで、それに合った画像を作成してもらう。
- ③俳句の背景として貼り付ける。

といったことが出来そうです。絵の得意不得意に左右されないのが、メリットもたくさんありそうです。ぜひ、使ってみてください！

Share Happy シェアハピ°!

【1分で話せ】

先週、関東では梅雨入りが宣言されました。この時期は雨の日が多いこともあり、子供たちが落ち着かない…なんてことがしばしば起こります（6月の生活目標が「廊下を歩こう」となっているのも首肯できますね）。学級経営をする上で第一関門と言われているのがこの6月ですが、ボーナス目がけて頑張りましょう（本音）！！！！

さて、授業中の子供たちを観察していると、なんだかソワソワ…特に午後になるとおしゃべりが増えるこの時期。そんな様子にイライラしてしまい、私も昔はついつい厳しいことを多めに言っていました。後々振り返ってみると、6月は厳しくすればするほど逆効果だったなと思います（反省）…。厳しすぎず、でも緩すぎずというちょうどいい塩梅を探していきたいところですね。

本題に入ります。上でも書いた「1分で話せ」は、私がめっちゃめっちゃオススメする本のタイトルです。なんといっても、私たちの仕事への還元率がスーパー高い一冊！今回は、この本の美味しいところだけササっとご紹介します。詳しく読みたい方は、ぜひ「まな本コーナー」へ！



① どんなことも、1分で話せる

そもそも、どんなことでも1分あれば話せるというマインドをもつことが大切だそうです。「え、1分？短くない？」と思いますよね…。ただ、このマインドセットをすると、「何を話すか」よりも「何を話さないか」をめっちゃめっちゃ意識するようになります。「1分で伝わるように話せない話は、何十分話しても伝わらない」という、かなりドキッとさせる言葉も登場しますが、教壇に立つ立場として覚えておいて損はないと思います。

② 結論⇒根拠⇒具体例の順番で話す

「今日の昼食は、すき屋にしましょう。なぜなら、メニューが豊富だからです。チーズ牛丼、うな牛、カレーなど様々ですよ。」

こんな感じでしょうか。確かに、この順番で話すとすっきり話せるだけでなく、なんとなく説得力も上がる気がします。

「廊下は走ってはいけません。なぜなら、歩かないと大けがにつながるからです。昔、廊下の曲がり角で、出合い頭でぶつかった子が頭を打つ大けがをしたことがあります。」

話のテンプレートをもっておくと、自信をもって子供たちに話ができるかもしれませんね！

③ 自分の中に「リトルホンダ」をもつ

リトルホンダとは、元サッカー日本代表の本田圭佑選手が、イタリアの古豪ACミランへ入団する際の会見で発した言葉です。

「I just ask my **little HONDA** in my heart. Which club do you want to play? He answered, “I want to play AC milan.”」



自分の中にリトルホンダをもつとは、換言すると、**自分の中にもう一人の自分をもつ**という意味です。では、もう一人の自分に何をさせるのか。本当の自分を外から見てもらいます。自分が今、周りからどのように見えているのか、言いたいことは伝わっているのか、話はおもしろいと思ってもらえているのか、話長いわーって思われてないだろうか、などなど…。いわゆるメタ認知をしてもらうイメージです。これ、めっちゃ大切な感覚だと思います！

【最後に】

担任時代は、とにかく話は短く、指示は簡潔・的確にをめっちゃ意識していました。なぜなら、子供たちに「花岡先生の話は聞きたくない～」と思われなくなかったからです。これは予備校講師（今やタレント）である林修先生の本に書いてあったのですが、「人は、誰かの話を聞く前からその人の話を聞くかどうか判断している」のだそうです(；・▽・)。つまり、聞き手にとって大切なのは「何を話すか」ではなく、「誰が話すか」ということになります。

冒頭の話と繋げると、私は梅雨の時期の授業中は、いつも以上に話を短くするように努めています。ダラダラした児童を見てしまうと、ついつい「伝わっていない」と思って重ね重ね話をしてしまうのですが、**逆効果**です。この時期の子どもたちは、話が長いとみるみる落ち着きがなくなってきました。伝えたいことがあったときは、ぜひ1分間チャレンジをしてみませんか！？

Share Happy シェアハピ°!

【社会生活技能訓練（ソーシャルスキルトレーニング）】

学校の中で集団生活を行っている子供たちですが、集団生活のルールやマナーは守ることができているでしょうか？空気を読んで発言をしたり、周りに合わせて行動をしたりなど苦手な児童は多くいると思います。特に特別支援学級の児童は、相手の気持ちや場の状況を考えて行動することが苦手なことで繰り返し注意をされる場面が多いです。

こういった集団の中で他の人と上手にかかわりながら生活する技能のことを、**社会生活技能（ソーシャルスキル）** といいます。

佐藤は児童にソーシャルスキルを身に付けさせるため、パワーポイントを活用して**ソーシャルスキルトレーニング（SST）**を行っています。

指導の流れ

①

ろうか



今日のお話は『ろうか』です。

②



廊下を走っていた、きたくん。ようさんにぶつかってしまいました。

③

ろうかははしっていい

ろうかははしっちゃだめ



さて、廊下は、はしっていい？はしっちゃだめ？（児童の考えを発表させる。）

④

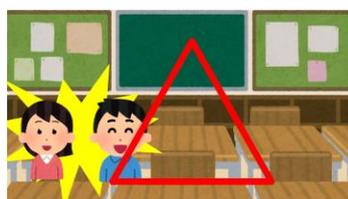
ろうかははしっていい

ろうかははしっちゃだめ



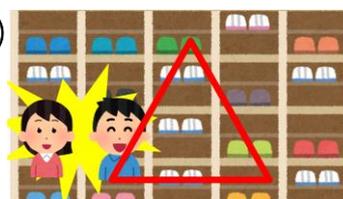
正解は、はしっちゃだめでした！（児童が発表から良かった理由を教師が取り上げ共有する。）

⑤



では、教室は走っていいでしょうか？狭くてケガをしますね…

⑥



下駄箱は走っていいでしょうか？

⑦



⑧



⑨

ろうかはあるこう！



体育館ははしっていいでしょうか？ 校庭は走っていいでしょうか？ 今日のまとめは『ろうかははあ
るこう』です。

指導で気をつけているポイント

①叱られるからダメを認めない

児童から出てくる理由に「先生に叱られるからやっちゃダメ」という子がいます。本来の理由を考えなければ意味がないので、佐藤は、「じゃあ叱らないからや
っていいよ。」と言って考えさせています。

②第三者目線で考えさせる

自身のことを言われると、**間違いを認めづらい児童**もいるかと思います。あくま
で他人のこととして考えると、自分が正しくあろうと積極的に考えてくれます。いま
までに間違ってしまったことがある児童も、第三者の目線に立って考えると素直
に自分の行動を振り返れるかと思えます。

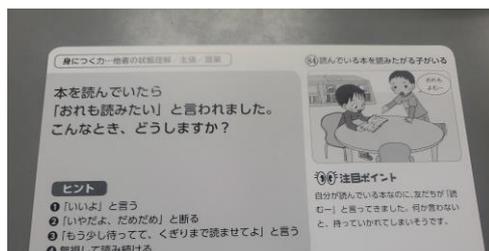
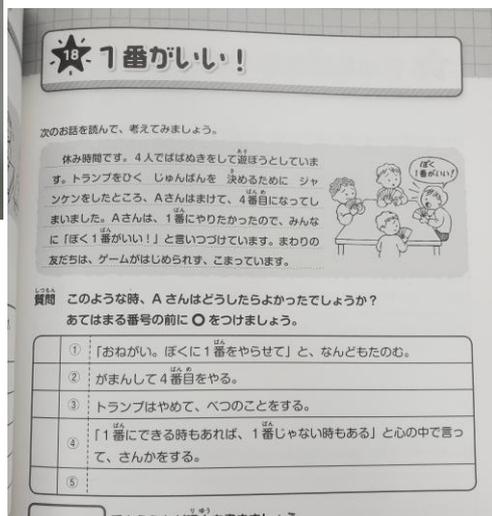
③×印を使わない

児童たちは第三者目線で考えますが、自身の行動と照らし合わせる場面があるか
と思えます。間違った行動に×印をつけると、心当たりがある児童の行動を真っ向か
ら否定してしまいます。△印をつけて、今後行動を見直して○にしていこうと促し
ています。

④起こったことや、起こりそうなことを題材にする

学級内で起こったケンカの内容を取り上げたり、梅雨に入る前には傘の扱い方を
題材にしたりしています。第三者目線で考えることで特定の人物を傷つけず、**再び
起こることを防ぐ**ことができます。予想されるトラブルについてはあらかじめ行う
事で**未然に防ぐ**ことができます。

興味のある方がいらっしゃいましたら、共有できる教材がありますので、ひまわ
り学級の佐藤までお声かけください。長々と失礼しました。



Share Happy シェアハピ°！

【全教科使える！子どもの意見を広げる・深める切り返し法8選】

1 再現法 「Aさんが言ったことを言える人？」

これが一番取り組みやすいものです。聞いていなかった児童がいた場合に使うことも多いですが、言わせることによって、**Aさんの意見をしっかり理解できているか**を図ることができます。また、一言一句同じ言葉で言わせるわけではないので、その子なりの解釈をした言葉で言えるのも良いポイントです。



2 要約法 「Aさんの意見を短く言える人？」

国語の授業では、4年生くらいから「要約」について学習します。要約するためには、大事な言葉を捉え、話し手の意図を理解しなければなりません。授業で長い文章を要約するとなると大変な作業になりますが、**日頃から友達の発表したことを短く言う訓練**をすると、要約する力がつきます。さらに、聞く力もつきます。



3 質問法 「Aさんに質問がある人？」

学級会等でよく使われる切り返しではないでしょうか。質問して全体の理解を深めたり、議題について決定していくための材料にしたりすることができます。しかし、やみくもに質問すればよいわけではありません。**何について話し合っているのか、何を目的にしているかが分かっていないと適切な質問はできません。聞いて考える力**をつけることができます。



4 伝言法 「Aさんの気持ちが分かる人？」

道徳の授業では、考え、議論するためによくこの切り返しを行います。児童が発表する際に「**Aさんの考えに似ているんですけど…**」という言葉の初めに言うことがあると思いますが、その発言についても同じです。**気持ちが分かる**



と友達が言ってくれれば、自分の考えを認めてくれたという気持ちになりますし、少し違った視点で友達が言ってくれれば「ああ、そういう考えもあるんだな」と学びになります。

5 代弁法

「Aさんの発言の大切なところを
隣の友達に伝えましょう。」

班など小グループの話合いの際、他のグループで協働的に意見を共有し合う場合などに活用できます。意図的に場を設定することで**話す力**をつけることができます。



6 予測法

「Aさんが～だけど・・・と言いましたが、
続きが言える人？」

算数の問題の解き方の説明や国語での登場人物の気持ち、理科での実験結果から考察したことなどの発表の際、頑張って発表しようとして説明し始めたけれども、途中で詰まってしまった場合・・・**リレーのように続きを説明させる方法**です。友達の意見をよく考えながら聞いて、「きっと〇〇さんはこんなことが言いたいと思う」と言えたら思考力Aです！



7 比較法

「Aさんの意見とBさんの意見の
似ているところ（違うところ）は何か？」

学習のねらいに迫りたいとき、複数の意見をまとめたいとき、それぞれの意見の良さに気づかせたいときなどに使うことができます。話合いの場面で投げかけてみると、**子供たちの考えも整理されます。**



8 統合法

「Aさんの意見とBさんの意見をまとめられないかな？」

学級活動や国語の話合い活動で活用できる方法です。まとめるためには、共通点を発見し、不必要な部分は省いて簡潔に表さなくてはなりません。日頃から友達の意見と自分の意見を比較して同じ部分を探したり、だらだら長く考えながら話したりするのではなく、できるだけ短い文章で話したりすることを意識すると**まとめる力**がついてきます。



以上の繰り返し法は、**対話的な学び**へと繋がっていきます。
ぜひ、ご活用を！

Share Happy シェアハピ°!

【ファシリテーション養成講座にて】

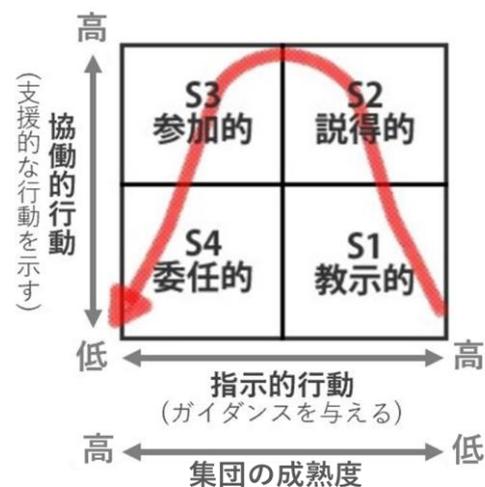
11/8に参加したファシリテーション研修。小林先生もおっしゃっていましたが、めっちゃ勉強になりました！今回は、1日の研修の中で私が最も共感したことをご紹介します。頷きすぎて、首がもげそうになりました。

【SL理論】

私にとって最も共感したのは、「状況に応じたリーダーシップ理論 (Situational Leadership)」です。一般的には頭文字をとって**SL理論**と呼ばれています。

この理論、ざっくりと説明すると「**集団の成熟に伴って、リーダーのあり方も調整していかないとダメだよね!**」という理論です。

これだけ聞くと堅苦しい感じがしますが、これは学級経営を行う上で担任がものすごく意識しなければならないことだと思います。右図をご覧ください。S1が最も成熟度の低い集団、S4が最も習熟度の高い集団を意味しています。それぞれの段階におけるリーダーの在り方について簡単に説明していきます。



○S1

リーダーには、**教示的な立場**が求められます。リーダーが行う指示は多く、協働的行為（簡単に言うと褒めるや認める等）は少なめにするという段階です。入学したての1年生、進級したての2年生などは、まずはしつけ！という段階なので、この集団に属しているかなと思います。

○S2

リーダーには、**説得的な立場**が求められます。リーダーが行う指示は多く、褒めたり認めたりすることも多くするという段階です。中学年のようにベースは固まりつつあるものの、まだまだ教育しなければいけない集団は、指示だけでなくモチベーション維持のための褒める・認めるをセットで行いますよね。

○S3

リーダーには、**参加的な立場**が求められます。リーダーが行う指示は少なく、行為に対して褒めたり認めたりすることは多めという段階です。高学年のようにプライドが高くなっていく集団は、指示が多いかえって窮屈さを生み出し、機能不全に陥ることもしばしば

…。でもフィードバックがないと自信ももてない…。そんな集団と関わるときの立ち回り方なのかなと思います。

OS4

リーダーには、**委任的な立場**が求められます。リーダーが行う指示は少なく、行為に対するフィードバックも少ないという段階です。最も成熟している、いわゆる「自走できる集団」と言えます。小学校段階でここまで来るのはなかなか至難の業のような気がしますが、中・高校生になると「引っ張る」から「見守る」というリーダーに切り替える必要があるのかなと思います。

今回は学年を例にして説明しましたが、**1つのクラスがS1からS4へと変化していくこと**をイメージしてもらえれば、より理解が深まるかと思います。

大切なのは、全クラスがS4のような自走クラスに成熟することではなく、**集団の成熟度に合わせてリーダーとしての立ち回り方をチェンジしていくことだそうです**。例えば、集団の成熟度がS1なのに指示をせずに児童にお任せでは、集団が良からぬ方向へ転ぶかもしれません。一方で、S4のように成熟しているのにも関わらず事細かに指示を出し、型にはめ込むような指導をしていては暴動が起きるかもしれません（大げさ）。

まとめると…

集団の成熟度を見極め、立ち回り方を考える力こそ、ファシリテーターに必要なのだそうです！

Share Happy シェアハピ°!

～ICT活用指導力向上ワーキンググループ協議会の報告～

今回の協議会では、蕨市内の学校でどのようなICTを活用しているのか報告会がありました。…と言っても、北小、中央小、塚越小の三つしか発表していませんが…他の学校でどのようにICTを活用しているのか気になっている人もいますので、この場を借りて報告させていただきます。

【スクールタクト】

スクールタクトはみなさんも使っていると思います。ただ、1年間で自分の作ったテンプレート(データ)がなくなってしまう。

「来年度の我々の負担を減らすために」 授業のために作ったテンプレートを登録するだけで、来年度以降もそのテンプレートを使用することができます。



テンプレートを登録するだけで、来年度の先生方が少しでも楽になるようにみなさんと頑張っていきましょう。(わたしが楽しただけです…)

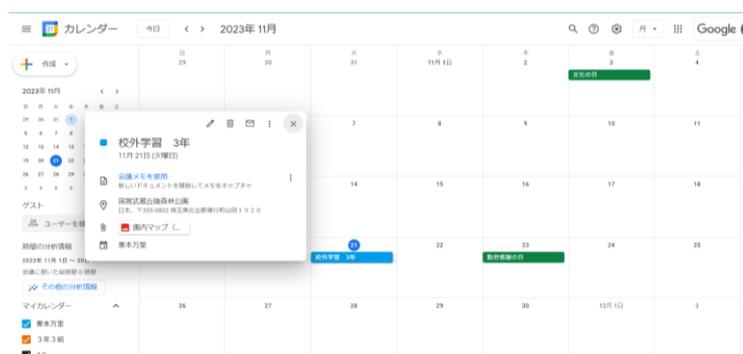
【連絡帳をICT化】

他の学校では、**連絡帳を書いていない**ところもあるそうです。classroomを使って連絡帳を教師が記入していました。**メリット**としては、**子供も保護者も正確に連絡を受け取ることができます**。また、**連絡帳を出した、出さな**

い、書いてない問題がなくなります。インターネットのない家庭は、スクショで解決できます。特に、3年生以上では、連絡帳をなくす方法を検討してみてもいいでしょうか？(学校によってはスライドを使用しているところもあるそうです。)

【Google Chat】

北小学校では、C4thでの連絡をしています。しかしながら、他の学校では学校行事や提案資料をカレンダーに入れ、職員全体で共有しています。



事前にカレンダーに、資料や場所、内容等を入れておけば、「どこを見ればいいんだっけ?」「どこに資料あったっけ?」「〆切いつだっけ?」といった疑問・ストレスが解消されます。特に行事などの提案資料や必要資料などを連結させられるのは働き方改革かもしれません。

ただ、職員内に連絡する機能はないので、連絡方法と予定表ですみ分ける必要があります。(すごく便利ですが…すべてまとめて一つのほうが分かりやすいのか?)

【遅刻・欠席の子への対応】

毎朝先生がバタバタしてしまう「朝来ていない子の対応」

です。他の学校では、職員室の先生と担任の先生が連絡を取る「Jamboard」があるそうです。

担任が来ていない子の名前を書く
(ピンクの付箋)



職員室にいる先生が確認し、
担任の代わりに保護者に連絡を入れる。



保護者との連絡で分かったことを書く
(オレンジの付箋)



クラスと職員室を往復する大変さが軽減できそうな方法ですね！

などなど…たくさんの業務改善案が出ていました。我々の仕事の中でまだまだ、負担・ストレスを減らすことができるはずです。(そして時短にもなります)

先生方でも知っている業務改革・時短術・アプリ等がありましたら、教えてください…

【Kahootの一括作成】

実はスクールタクトにkahootのテンプレートがあります。子供たちに問題と正解を考えさせるだけで、30問近くの問題を一瞬でつくることができます。すごく楽になります！

The screenshot displays the Kahoot! template creation interface. The main editing area shows a question with a large text input field containing the placeholder '(ここに入力できます)'. Below the input field are four multiple-choice options, each with its own '(ここに入力できます)' placeholder. The timer is set to 30 seconds. The right panel shows the media selection options, including 'クラシック', '大きいタイトル', 'タイトルとテキスト', '箇条書き', '引用文', and '大きいメディア'. A '問題ジェネレーター' button is located at the top right. Red arrows indicate the flow of information from the text above to the input field and the media panel.

Share Happy シェアハピ！

【Flipを使った実践】

以前、ICT研修の際にレベルアップコースで「Flip」というアプリをご紹介させていただきました。今回は、このアプリを使った実践をお伝えします。



【What's Flip?】

そもそもこのFlip、どんなアプリなのかざっくり説明をすると「**自撮り動画を専用クラスルームの中に投稿できる！**」というものです。もちろん外部の人間はアクセス出来ないので安全性は保証されています。教育委員会の方でもおすすめされているアプリのようで、Googleドライブ内で「Flip」と検索をかけると、ICT支援員さんが作ってくださった説明動画(しかも児童向けと教員向けの2本)もあります！

このアプリ、何がよいかというと・・・

- ☑タイピング能力が必要ない
- ☑複雑な操作がない
- ☑1人1人のパフォーマンスを評価しやすい
- ☑おもちゃ感が強く、低学年でも楽しみながら活用できる
- ☑撮影してほしい動画の時間をこちらでコントロールできる

などなど。結構メリットの多いアプリです。試しに、5年理科で使ってみました。テーマは、「**天気予報の動画を撮影しよう！**」というものです。単元の最後に課題となる天気情報を与え、学習したことを生かしてその後の天気を予報してみよう！といった学習です。初めて使うアプリだったので、1時間好きに操作させ、次の時間に動画を撮影してもらいました。



アップロードされた動画は、教師画面でこのように見えます。撮影した動画を児童間で見合うこともできますし、コメントを残すこともできます。

使ってみたメリットと、デメリットをまとめると・・・

◎メリット

- ☑1人1人のパフォーマンス評価を行なう上で非常に便利
- ☑ペーパーテストでは見とれない「思考・判断・表現力」がよーく分かる
- ☑動画時間が制限されたことで、子供たちが「何を話すか、何を話さないか」を熟考していた
- ☑相手に言いたいことを伝えるための工夫が見られた

▼デメリット

- ☑付属の機能(背景を変える、GIFを挿入する等)に時間を取られ、撮るべき動画を撮ることができない児童がいた
- ☑タブレット忘れ、充電切れが一定数出るため、一時間で全員の動画を集めることが難しい

といったところです。ただ、慣れれば慣れるほど便利だなと感じた実践だったので、これからもめげずに使い続けたいと思います。

【最後に】

このアプリを使って最も印象的だったのは、「**子供たちって、話すことに自信がないんだな**」ということです。「先生、〇〇って話していいですか?」「先生、〇〇を話したあとに××を話したほうがいいですかね?」など、質問が絶えませんでした。普段の友達との会話はできても、**いざ明確に他者意識をもって「自分の考えを伝える」となった瞬間に話せなくなる...**北小の課題のひとつなのかもしれません。これからの時代、「書く力」はAIに置き変わると言われているため、ますます「話す力」が重要になってくるそうです。ぜひ、みなさんもこのFlipを使って「自分の考えを発信できる児童」を一緒に育てていきましょう!!!



←Flipのログイン画面に飛びます!

Share Happy シェアハピ！

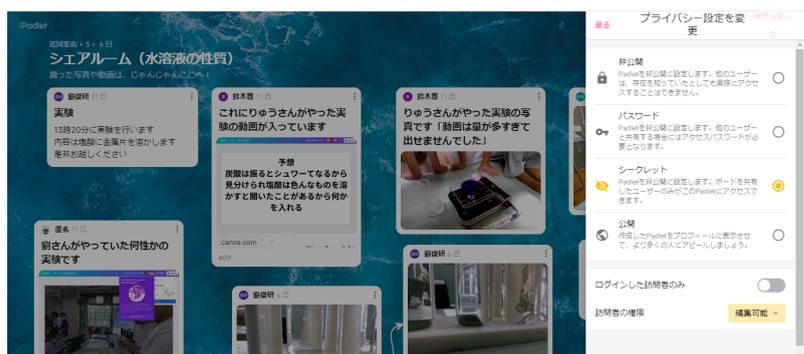
【悲報】Jam boardサービス終了のお知らせ

先週、教育界にある激震が走りました。それは...「[Jam boardサービス終了のお知らせ](#)」です(/_;)。本校でも様々な場面で活用していたJam board。なんと2024年9月30日をもってサービスを終了するというのです...。あのカラフルな付箋たちとも、あと1年弱しか一緒にお仕事ができせん(/_;)。私は席替えやちょっとしたグルーピングを考える際にとっても活用していました。年度当初にクラス全員分の付箋を作り、そのページを複製して何度も活用していました(;・∀・)。ありがとう、Jamboard。

さて、授業では全員で意見を出し合い、整理していく場面において最強の活躍を見せていたJam board。これは何としても早いうちに代わりとなるものを見付けなければ...！ということで、今回は代替できそうなアプリを5つご紹介します！

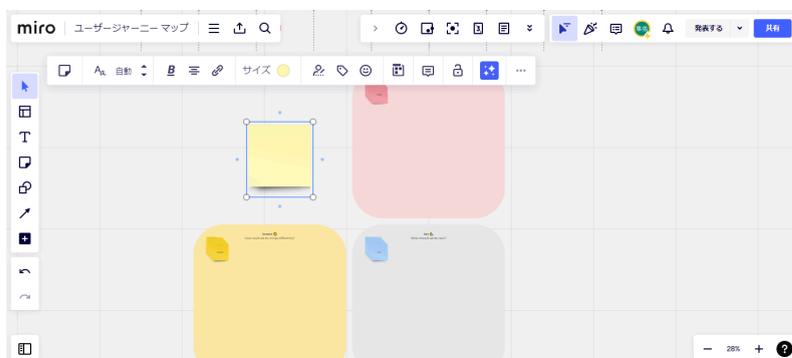
①Padlet

以前シェアハピでもお伝えした、超万能掲示板の「Padlet」です。これのメリットは、ログインしてから活用すると、自分の名前が自然と投稿に反映される点です。また、画像付きで投稿できるため、より分かりやすく意見を伝えることもできます。設定で訪問者の権限を「編集可能」にすれば、管理者以外も投稿を自由に動かせるようになります！



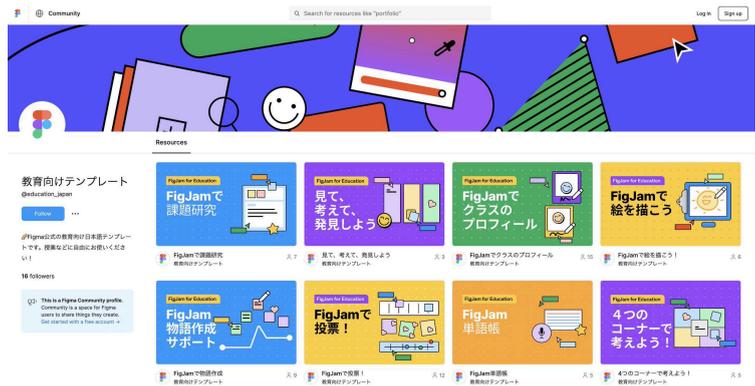
②miro

一言で言うと、「超高性能デジタルホワイトボード」といった感じです。機能やテンプレートがたくさんあるというメリットの反面、児童が使うにはやや難しいかもしれません。完全に対象は大人なので、研修等では活用できそうです！



③ FigJam

これも、どちらかというと大人向けのサービスです。スタンプ機能等もあるので出来ることが多い反面、シンプルさが売りだったJam boardと比べると、若干複雑な印象を受けます。ですが、教育向けテンプレートも充実してきているため、次世代のJam boardの呼び声が最も高いようです。



④ Canva

ここでもやはり大活躍なのが、Canvaのホワイトボード機能です。おそらく、現状これが最もJam boardに近いかなと思います。素材ボタンを押すとすぐに付箋がスタンプしてくれるので、使い勝手もGOODです。また、Jam boardのようにページを増やすこともできるため、グループごとの協議も十分できます！投稿に自分の名前も自動的に入ります！



⑤ ふきだしくん

このアプリの最も優れている点は、認証ログインが必要ないところです。招待URLをクリックし、呼び名を入力したらすぐに入力場面に行ける手軽さは、授業でも汎用性が高そうですね！校内研修でも活用している学校が増えてきているそうです！！

